

# Global English

## Newsletter Vol.16

「将来について話せなかった生徒が自信を持って夢を語っている」  
 「生徒が全身で留学生リーダーに意見を伝えようとしている姿に感動！」

Global English を実施した学校教員のコメントより

### GEP Quiz!

以下の写真は留学生が母国で撮影した写真です。どの国で撮影された写真でしょうか？

また、写真の状況についてあなたならどのように説明しますか？



(答えは裏面に記載)

### グローバル人材に必要な論理的思考力と表現力

「英検準2級の面接で求められる、物事や状況を的確に、さらには自分の考えをわかりやすく伝えるスキルを身につけられる英語学習プログラムはないだろうか。」

ある学校の先生のそんな言葉がきっかけとなり「英語で思考し、伝える力を育む」ためのプログラムとして Global English は生まれました。

Global English では留学生リーダーの母国での生活や経験談などリアルな題材を扱うことで、留学生という「人」を入り口に、参加者が海外や異文化をより身近に感じ、英語をツールとして実践的に使う機会を提供します。また、課題解決型・協働型の活動を通じて物事や情報を多様な視点から検討し、論理的・客観的に理解する力を育みます。今回は栃木県の女子高校で実施したプログラムの事例をご紹介します。

### 自信と関心がコミュニケーションの源

プログラムの実施にあたり、先生から事前にお聞ききした課題は、「英語は正しい文法で、フルセンテンスで発言しなければならない」といった固定観念が生徒の英語学習にブレーキをかけているということでした。そんな苦手意識を生徒が克服し、コミュニケーションツールとしての英語学習の意義を感じられるよう、活動を設計しました。

生徒が英語に慣れ親しむことを目的に、プログラムの序盤ではチーム対抗のゲームをいくつか取り入れました。例えば、Story Making という活動では、「5W1H」を使って短文を作成し、グループのメンバー全員の文章をつなぎ合わせて物語を作ります。メンバー各々の発想の組み合わせが、物語に予想外の展開と面白さを生み、笑いを誘うことで、最初は緊張した様子だった生徒の表情も徐々に明るくなりました。英語の正しさではなく、表現や発言といった行動が評価され、チームで競い合う仕掛けが生徒の積極性を生み、挑戦への意欲へと繋がります。

社会課題をテーマにした活動では、留学生リーダーが「自分に影響を与えた人物（尊敬する人、ロールモデル）と将来の夢」に



について発表を行いました。自分と同年代の若者が自信を持って語る「夢を通じた社会参加や貢献」に直接触れる経験は、生徒自身を取り巻く世界に対する意識にも変容をもたらしました。同じテーマで生徒が発表を行う活動では、これまで自分の将来について上手く言葉にできなかった

生徒が、自信を持って夢について熱心に伝えようとする姿が見られました。

## GEP Quiz! 答え

B: インドネシア

インドネシア・バリ島にあるヒンドゥー教の大本山「ブサキ寺院」で留学生が撮影したものです。

豊作を祝うお祭りでお供えものを持った女性が階段を下っています。

Global English では、英検の2次試験で出題される、写真の状況を英語で説明する活動を通じ、物事を客観的に捉える思考力と、論理的に伝える表現力を鍛えます。

留学生リーダーによる題材の提供を通じて、リアルな海外事情についても触れることができます。

**表情が変われば行動が変わる。行動が変われば未来が変わる。**

以下は、Global English を体験した生徒の感想の一部です。生徒の英語学習に対する意識の変化があらわれています。

「英語を授業の一環と思うと、苦手だから伸びない。コミュニケーションの取り方が分かってから楽しくなり、もっと学びたい気持ちになった。」

生徒の変化は表情や仕草からも十分に感じ取れました。最終プレゼンテーションでは生徒がはっきりとした声でアイコンタクト取りながら発言する様子が見て取れ、より明確に考えと感情を表現することができていました。

プログラムを通じた生徒の挑戦が、英語コミュニケーションに対する自信だけでなく、多様な価値観を尊重しながら協働し対話するといった、これからの未来を切り開く上で必要な資質を育む一助となれば幸いです。

**新たな未来を築く主体者となるために**

生徒の少し先を歩む先輩として、行動力と想いに溢れる留学生リーダーと直接触れ合い、想いを交わす経験は、生徒にとって「世界」を身近なものに変えてくれます。これまでの当たり前が通用しない社会の中で、生徒たちが、新しい答えを自分で見つけて挑戦していけるよう、Global English での体験が、生徒たちの社会への好奇心や探究心を引き出し、さらにはより良い未来を築いていけるよう、他者と深く分かり合うためのコミュニケーション力とその意欲を育むことを願っています。

この度は Newsletter 第16号を手にとっていただき、誠にありがとうございました。

これからも、日々増え続けている「学びの場面」の事例をピックアップしてご紹介させていただきます。

株式会社 LbE Japan (エルビージャパン) <http://www.lbejapan.co.jp> [info@lbejapan.co.jp](mailto:info@lbejapan.co.jp)